

第2学年 国語科学習指導案

2 年 11名
指導者 岡田陽子

1 単元名 なぞなぞうたで あそぼう

共通教材 「見たこと、かんじたこと」(光村 2年下)

発展教材 『なぞなぞあそびうた』『なぞなぞあそびうたⅡ』(角野栄子, のら書店)

2 指導にあたって

(1) 単元の構想と展開について

本学級の学習者は、本の読み聞かせや、休憩時間の読書活動をとおして、よく本に親しんでいる。学年当初は、自分でじっくりと物語を読むことはまだまだ難しく、図鑑や絵の多い本を楽しんでいることも多かった。しかし、「たんぽぽのちえ」の学習で探検したり、「スイミー」の学習で絵本を作ったりする活動の中で、おもしろかったことを話しに来ることも多くなり、だんだんことばや表現への興味や関心が高まってきた。前単元「おおきなあれ」では、作者になって詩の第3連を作るという活動を体験し、作者のものの見方やとらえ方をなぞりながら、ことばを用いて表現することの楽しさを味わった。また、5月の「かんさつ名人になろう」では、様々な観点から植物を観察することとおして、ものをしっかり見ることへの関心が高まっている。

そこで、本単元では、身近なものを観察し見たことや感じたことを詩の形で表現する。自分で作った詩の題名当てをすることを最終目標として、リズムやことばの表現を工夫したなぞなぞうたを書き、表現することの楽しさを味わうことができるようにしたい。その際、角野栄子の「なぞなぞあそびうた」を読む活動を位置付ける。詩人の詩を味わい、その見方やとらえ方をなぞらせる形で回りのものをとらえることとおして、読むことのよさに気付かせたい。

(2) 教材について

本単元では、「なぞなぞうた」を扱う。なぞなぞは、好奇心旺盛なこの期の学習者にとって非常に関心が高い活動である。3回の題名当てなぞなぞ大会を行うこととおして、詩のことばやリズムのよさを楽しむ。まず導入として、教科書教材「見たこと、かんじたこと」の詩を使って第1回なぞなぞ大会を開く。ことばからものの様子や形などの特徴をとらえる活動をし、後の活動への見通しをもてるようにする。第2回なぞなぞ大会では、グループごとに異なった角野栄子の「なぞなぞあそびうた」に親しみ、その中から自分がなぞなぞに出したい詩を選ぶ。自ら詩を選ぶという活動とおして、選んだ理由や、好きな理由を考えたりする中から、表現の工夫やおもしろさに気付くようにしたい。角野栄子の詩は、表現方法の豊かさやものとのとらえ方のおもしろさ、意外性、またものに対する優しさや愛情が感じられる。学習者は、そのおもしろさに引き込まれるであろう。想像を膨らませて、角野栄子の「なぞなぞあそびうた」のおもしろさを存分に感じ取ることが、自分でなぞなぞうたを作るときの手がかりとなるであろう。

(3) 主体的・自覚的にことばを学ぶための手立て

主体的に読むことができるように、次のような手立てを講じる。

○ なぞなぞうたを扱い題名当てなぞなぞ大会を行う。なぞを解くという形で読むことにより、自然と自主的に繰り返し読む活動がなされるであろう。また、なぞなぞうたを作るためには、学習者が自ら身近な題材から詩にしてみたいと思うものを選び、観察し、見たことや感じたことを表現することが必要となる。主体的に周囲のものをとらえ、表現することを活動の最終目標とすることにより、意欲的に取り組むと考える。

○ 読む活動の中で、なぞなぞ大会に出したい詩を選ぶという活動を位置付け、自分なりの読み方や味わい方を中核に据えた活動を行う中で、主体的に読む経験をさせる。

○ 学習の手引きの活用により、自分が好きな表現やおもしろいと思う表現に目を向ける。表現を工夫すれば身近にある何気ないものがおもしろく見えてきたり、楽しく感じたりするようになってくることに気付くようにしたい。

自覚的に読むことができるように、次のような手立てを講じる。

- 題名を当てるとい形で読む活動を繰り返し行う。いくつかの詩と出会う中で、新しいものとのらえ方や表現の仕方に気付かせ、ことばのよさやおもしろさを意識しながら豊かに表現することにより、自身のことばの学びを自覚させようとした。
- 単元末に感想を書いたり、発表したりする活動をとおして、自己評価力を育てる。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 詩人になってなぞなぞうたを作り、題名当てなぞなぞ大会をしよう。

(2) 指導目標

- 詩の題名を当てるとおして、作者の身の回りのものに対する優しさや愛情を感じ取りながら、作者のものの見方やとらえ方、ことばのリズムや響きのよさを楽しむことができるようにする。
- 作者の発想をまねながら、身の回りのものの特徴をつかみ、見たことや感じたことが分かるようなことばを選んで書くことができるようにする。

4 単元の評価

	評価規準	○「十分満足できる」と判断される状況 ◎「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 【 】は評価資料
読むこと	詩の中の根拠となることばを結び付けて、題名を読み取っている。 作者が自分と異なったように見ていることや、そのよさに気付いている。 【読みの質】	○ 詩の中の作者の表現と、実際のものをつなぎ付けながら、その見方のおもしろさを楽しんだり、自分の生活の中に生かそうとしたりしている。 ◎ 身の回りにある何気ないものに目を向けさせ、それを詩で表現するよさを伝える。また、自分がなぞなぞに出したい詩を選ぶ活動をとおして、表現のおもしろさやよさを見付けたり、その理由を考えたりするようにする。 【観察・発言・学習の記録】
	複数の詩を読み比べ選ぶ中で、作者の身の回りにあるものとのらえ方のおもしろさに気付いている。 【読み方】	○ 複数の詩を読み比べる中で、なぞなぞうたの特徴やよさに気付いている。 ◎ 個々に対話しながらおもしろさに気付かせたり、小さなステップで詩を比べながら選ぶことができるようにする。 【発言・学習の記録】
	詩のリズムに乗って読んでいる。好きな表現やまねしたいと思う表現を見付けている。 【付けるべき力】	○ ことばのリズムや響きのよさを楽しんで読んでいる。 ○ 生活の具体物を豊かに想像しながら、角野栄子や友達の表現しようとしたことは何か、自分の思いと重なるところはどこか考えている。 ◎ 学習の手引きをもとに発表の方法を知らせる。理由となる表現や特徴的な表現を取り上げることで、イメージをふくらませることができるようになる。 【観察】
書くこと	身の回りのものの特徴をつかみ、書く材料を集めたり、見たことや感じたことが分かるようなことばを選んで書いたりしている。	○ 集めた材料をもとに豊かにことばを用い、表現に工夫しながらなぞなぞうたを作っている。 ◎ 詩を読む中で、表現方法に着目する機会を設ける。また、書く際には対象物（絵や写真など）を持たせ、その形、色、様子等に注目させ、ことばを見つけることができるようにする。 【学習の記録・観察】

5 単元構想表 (全5時間)

学習活動	学習者の意識の流れ	主な指導・支援	付けるべき能力
<p>【事前】朝の会や音読集会で、日常的にリズムのよい詩に親しませおく。</p> <p>1 題を隠した教科書の詩の題名当てをする。(1時間)</p> <p>2 角野栄子の「なぞなぞあそびうた」の中から、なぞなぞにしたい詩を選んで題名当てをする。(2時間) ○グループごとに、5編の中から詩を選ぶ。 ○題名当てなぞなぞ大会をして、ことば遊びを楽しむ。 【本時 2/2】</p> <p>3 自分たちが作ったなぞなぞうたで、題名当てなぞなぞ大会する。 ○見たこと感じたことを工夫してなぞなぞうたを作る。 ○題名当てなぞなぞ大会をして、ことば遊びを楽しむ。(2時間)</p>	<p>「大きくなあれ」の作者になったつもりで、詩を作るっておもしろいなあ。</p> <p>「かんさつ名人になるう」で回りのものをよく観察し、表現できるようになったよ。</p> <p>詩の題名当てをしよう。 【第1回なぞなぞ大会】</p> <p>身の回りの特徴をこんなことばでとらえているのがおもしろいな。</p> <p>たとえや繰り返しの表現がおもしろいな。</p> <p>なぞなぞうたのように、身の回りのものがとらえられたらおもしろいな。</p> <p>もっともつとなぞなぞうたで遊びたい。</p> <p>詩人になったつもりで、なぞなぞうたを作って、題名当てなぞなぞ大会をしよう。</p> <p>角野栄子の「なぞなぞあそびうた」の中で好きな詩を選ぼう。</p> <p>身の回りのものの特徴をこうとらえているのがおもしろいな。</p> <p>ことばのリズムや響き、表現の工夫が好きだから選ぼう。</p> <p>聞き手は意外に思うだろうな。答えが分かるかな。</p> <p>選んだ詩のなぞなぞ大会をしよう。 【第2回なぞなぞ大会】</p> <p>この詩に、こんな目の付けどころのよさもあるんだな。</p> <p>こんな表現をまねたいな。</p> <p>詩人のようにとらえてみると、身の回りの物が楽しくみえてくるね。</p> <p>詩人になったつもりで、なぞなぞうたを作ってみよう。</p> <p>目の付けどころや、発想をまねてことばを選んでみよう。</p> <p>繰り返しやたとえを使ってみよう。</p> <p>詩人になったつもりで、身の回りのものをみると、また違った世界が見え楽しいね。</p> <p>作った詩を発表しよう。 【第3回なぞなぞ大会】</p> <p>友達の発想や、ことばの選び方っておもしろいな。</p> <p>いろいろな表現が楽しく使えているね。</p> <p>もっともつと詩人になったつもりで、身の回りの物を見ていきたいな。</p> <p>「なぞなぞうた」って楽しいね。詩を書くって楽しいね。まだまだ、ことば遊びの詩があるよ。</p>	<p>文字だけの詩を示す、ヒントとなる挿絵と共に示すなど、詩の提示の仕方を工夫する中で、なぞなぞうたに対する関心が高まるようにする。</p> <p>指導者がいくつか簡単な事例を挙げることで、詩を書くことに対する抵抗を少なくする。</p> <p>発想や表現のおもしろさに目を向けることができるよう、色カードや、板書を使って整理する。</p> <p>いろいろな発想や表現のおもしろさを学ぶことができるよう、意図的に詩を選ぶ。</p> <p>詩が選べない学習者に対しては、個々に対話しながらおもしろさに気付かせる。小さなステップで詩を比べさせながら、選ぶことができるようにする。</p> <p>詩のことばからイメージが広がるよう助言したり、必要に応じて絵や写真、具体物を示したりする。</p> <p>これまで取り上げられた詩人の発想や表現を使って指導者が例を示す中で、自分たちも作ろうとする意欲を高める。</p> <p>いくつかなぞなぞうたが作りやすい題材を準備しておき、戸惑っている学習者には提示する。</p> <p>学習者の作った詩のおもしろさや表現を楽しみながら聞けるよう、発表の順を工夫する。</p> <p>詩人の見方や表現をもとに豊かに想像を広げて、身の回りのものをとらえる楽しさに気付かせる。</p>	<p>○前後の表現から何を表した物か考える。</p> <p>○好きなどころや、おもしろいところを見付ける。</p> <p>○自分の経験と結び付けながら読む。</p> <p>○ことばのリズムや響きのよさを楽しむ。</p> <p>○前後の表現から何を表しているか考える。</p> <p>○ことばのもつおもしろさや、表現の楽しさに気付く。</p> <p>○自分の経験と結び付けながら読む。</p> <p>○ことばのリズムや響きのよさ、豊かな表現を楽しむ。</p> <p>○様子がよくわかることばを工夫する。</p> <p>○思ったことや気持ちを表すことばを工夫する。</p> <p>○書いた文を読み返し、表現の良さに気付く。</p> <p>○前後の表現から何を表したものか考える。</p> <p>○自分の経験と結び付けながら聞く。</p> <p>○ことばのリズムや響きのよさ、豊かな表現を楽しむ。</p> <p>○友達のなぞなぞうたの答えやその理由を話す。</p>

6 本時の学習

(1) 本時の学習について

本時は、前時に選んだ、角野栄子の「なぞなぞあそびうた」をもとに、なぞなぞ大会をする。題名を当てるために繰り返し読む中で、表現の仕方やものとのとらえ方のおもしろさ、ことばのリズムや響きのおもしろさに気付くようにする。視点を変えた角野栄子の「なぞなぞあそびうた」の楽しさに十分浸らせる中で、自分たちも角野栄子のように周囲のものをとらえようとする意欲を高めたい。好きな表現を見付けたり、その理由を考えたりすることによって、ことばのおもしろさを実感させることにより、次の活動では自分が詩人になって楽しんで表現できるように導きたい。

(2) 目標

① 学習者の活動目標

「なぞなぞあそびうた」の題名当てなぞなぞ大会をしよう。

② 指導目標

「なぞなぞあそびうた」の題名当てをすることをとおして、角野栄子の見方やとらえ方のおもしろさや、表現のおもしろさに気付き、自分でも詩を作ってみたいという意欲を高める。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	指 導 ・ 支 援
5	1 「なぞなぞ ならんだ」をみんなで音読したり、前時の活動を思い起こしたりする。 題名当てなぞなぞ大会をしよう。	1 楽しく声に出して読めるような雰囲気づくりをし、題名当てをしようとする意欲を高める。
25	2 自分たちが選んだなぞなぞうたで、題名当てをする。 ・色や形、音のとらえ方に目を付けたグループの発表 ・繰り返し、リズムや響きなど、表現の工夫に目を付けたグループの発表 ○聞き手はなぜその題名だと考えたのか、理由を述べる。	2 角野栄子の身の回りのものとのとらえ方や表現のおもしろさに気付くことができるよう、意図的に発表の順を組み立てる。 なぞなぞの出し方や答え方について、詩のことばからイメージが広がるよう学習の手引きを作成し、参考にさせる。 根拠となるところが、人によって違っていることに気付かせ、友達の発想やことばのもつのおもしろさを楽しませる。
10	3 「なぞなぞあそびうた」の中から、表現についての工夫を話し合う。 ・まねてみたい表現	3 学習者が選んだなぞなぞうたの表現を、色カードに分けたり、板書で整理したりして、表現方法をつかませる。
5	4 次時の学習で自分でなぞなぞうたを作ること知る。	4 本時で学習した詩人を見方や表現を生かして、自分でもなぞなぞうたを作ってみようという意欲を高める。

(4) 本時の評価

読むこと	自分が選んだなぞなぞうたや友達がなぞなぞに出したなぞなぞうたについて、見方やとらえ方のおもしろさ、ことばのリズムや響きのよさを味わって、楽しんで読んでいる。	○ たくさんの角野栄子の詩に触れる中で、角野栄子の詩の中の表現の豊かさや、身の回りのものに対する優しさや愛情を感じ取っている。 ◎ 学習の手引きをもとに発表の方法を知らせる。理由となる表現や特徴的な表現を取り上げることで、イメージをふくらませることができるようにする。【発言・観察】
------	--	--